（第3種郵便物認可）

週刊 循環経済新聞
The Recycling Economy Times

産廃・一廃・資源リサイクル業務に対応!
セミオーダーパッケージソフトの
環境将軍®
株式会社エジソン 検索 フリーダイヤル 0120-857-493 EdiSon

袋井に大型RPF施設完成

生産能力日量168t

リサイクルクリーン

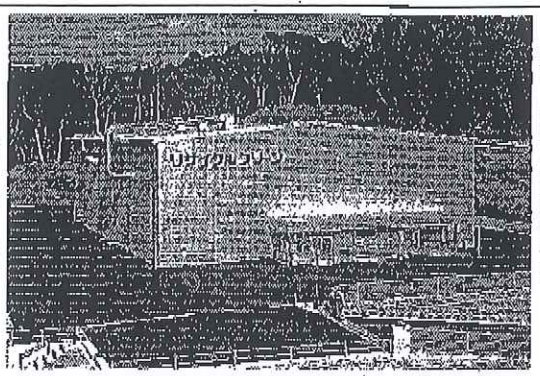
産廃・一廃、建物解体や一般土木、中間処理、収集運搬など幅広く実績を重ねるリサイクルクリーン（静岡県浜松市、藤城太郎社長、☎053・925・1366）は、袋井工場敷地内に、日量168㌧（24時間稼働）の大型RPF製造工場を完成させた。

蛍光X線分析と高度選別も

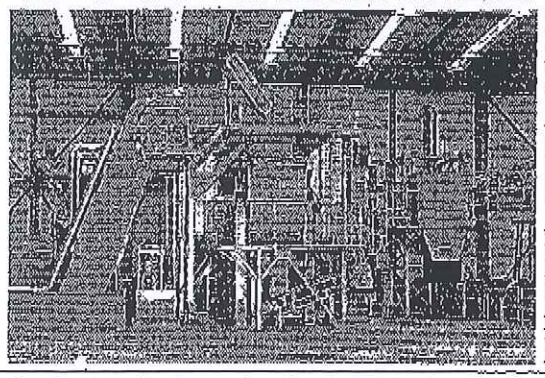
敷地面積は、1万9718平方㍍（5960坪）、RPF工場棟が4711平方㍍（1420坪）、RPF工場棟が1853平方㍍（560坪）の広さ。RPF原材料の品質向上のために3種の高度選別ができるバリオセパレーター（既存工場）、製品品質管理のために蛍光X線分析器（新工場）を導入。また、粉塵飛散対策として集塵機、ミスト、シートシャッターも設置。ドレンチャー設備、パソコンで確認できる監視モニターも設置して、防災対策にも力を入れた。生産したRPFは、県内の固定価格買取制度（FIT）を活用したバイオマス発電施設の燃料として全量活用する。

原料は、廃プラ類、木くず、紙くず、繊維くずで、わらやスダイロの古畳なども受け入れる。はじめに搬入された廃棄物は、重機で破砕機に投入され60㍉以下に砕かれ、その後振動ふるい機や磁選機にかけられる。磁選機は、吊り下げ式とドラム式の2台を組み込んだ。定量供給機に入った原料は、撹拌され切り出しスクリューによって成形機（350㌔㍗の大型モーター2台を使用）に運ばれヒーター熱、圧縮熱により固められていく。成型機の中では、固められた原料が押し出されながら、スクリューカッターでカットされる。最後に水沈フライトコンベヤの中で、水で冷やされながらピットに運ばれる。

同社は、これまでも県内の大川工場で日量24㌧（24時間稼働）、桜台工場で同20㌧（8時間稼働）の2つの生産施設を持っていた。RPFを生産できる袋井新工場が稼働することで、これまで焼却や埋立処理されていた、可燃性の廃棄物の多くを有効活用することができ、コスト削減にもつながることから導入することとなった。



袋井新工場の外観


RPF製造設備

方針

外食で実施率50%案

外食業界を代表する委員からは、目標値設定について「中小零細

調達価格算定委員会

小規模木質バイオマス優遇策

委員長案で40円を提示

資源エネルギー庁が執り行う再生可能エネルギー調達価格算定委員会で2月24日、より積極的な木質バイオマス利用や地域活性化などを目的として、小規模木質バイオマス発電（未利用材）を対象に40円（税抜き）の調達価格が委員長案として提示された。

同庁は、算定委員からの木質バイオマス発電が安定電源となり得ることに加え、現状の買取価格で小規模木質バイオマス発電では十分な利益を確保できないという点に留意した。原料の収集ができる地域は限られ、条件が不利な地域でも取り組める小規模施設などの設置が必要である――などの指摘を考慮した。なお、価格の算定については、いずなお山の発電所（長野県長野市）のコストデータを参考としている。

現在、山からの未利